



## ユダよ、帰れ

コロナの時代に聖書を読む

9月24日発売

奥田知志「著」 待望の、著者初の説教集！

◆四六判・270頁・定価1980円

2020年のイースター礼拝から始まった全15回の連続説教「コロナの時代に聖書を読む」。それは YouTube で配信され、たちまち全国から圧倒的な反響を呼んだ。コロナ禍でますます鮮明になった、人間を分断し、孤立させ、弱者を排除する社会に対して、著者は、聖書の深い読みと長年の実践に裏付けられた洞察をもつて、福音を大胆に対置する。その生彩に富んだ語り口は、説教者としての著者の面目躍如たるものがある。



奥田知志（おくだ・ともし）

1963年滋賀県生まれ。日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師、認定NPO法人抱樸（ほうぼく）理事長、公益財団法人共生地域創造財団、ホームレス支援全国ネットワーク、生活困窮者自立支援全国ネットワーク、全国居住支援法人協議会などの代表を務める。第19回糸賀一雄記念賞、第1回賀川豊彦賞受賞。著書に『もう、ひとりにさせない』（いのちのことば社）、『いつか笑える日が来る』（いのちのことば社）、『逃げ遅れた』伴走者』（本の種出版）ほか多数。

### 【目次より】

- 1 闇の中ではじまる  
—— コロナの時代を生きるために
- 2 会心の回心——この先にあるもの  
スケールの問題  
—— モーセからコロナを眺める
- 3 人であり続けるために  
——最後の被造物・人間  
裏切る神——希望とは
- 4 ユダよ、帰れ——ホームとは何か  
名もなき有名人名  
——あなたがあなたであること  
そんな手洗いなら  
俺たち絶対洗わねえ
- 5 黙禱——折れない夜に
- 6 資格は失格——信用できるはずもなく  
——それでも父は喜んだ
- 7 もつ一つの信仰告白——戸に鍵をかけ、クソつたれと折る
- 8 隠れたる神  
——神無き世を生きるために  
イエスはアホや
- 9 心配するな、これは消化試合だ  
——希望から見る
- 10 次回代の花形
- 11 次回代に新しくなれない私
- 12 次回代に新しくなれない私
- 13 次回代に新しくなれない私
- 14 次回代に新しくなれない私
- 15 次回代に新しくなれない私

## アナキズムと

## キリスト教

9月24日発売

ジャック・エリユール〔著〕／新教出版社編集部〔訳〕

◆四六判・220頁・本体2750円

鋭利な技術社会批判で知られるキリスト教知識人、ジャック・エリユール。ファシズムとの闘争、シチュアシオニストとの接触やエコロジ運動への参与のなかで形成されたそのラディカルな思想は、組織宗教の権威主義や国家を承認する聖書理解に反駁し、信仰とアナキズムの出会いべき地点を開示する。主人の軛を碎く解放の神、支配の根拠を切り崩すイエス、政治権力を退ける預言書や黙示録など、キリスト教に内在するアナキーなポテンシャルを覚醒させる晩年の重要作。

## 〔目次より〕

## 第一部 キリスト教の立場から見

## たアナキー

- 1 アナキーとは何か
- 2 キリスト教に対するアナキーな憤り

## 第二部 アナキーの源泉とし

## ての聖書

- 1 ヘブライ語聖書

## 2 イエス

## 3 ヨハネの黙示録

## 4 ペトロの手紙一

## 5 パウロ

## 補論

## カール・バルトとアルフォンス・マ

## イヨによるローマの信徒への手

## 紙13章1―2節の解釈

## 良心的兵役拒否者、ほか

## ローマの信徒への手紙 下巻

原口尚彰〔著〕

9月24日発売

◆A5判・240頁・本体5060円

修辞学的＝書簡論的分析の成果が完結  
邦人の手になる久々のロマ書本格注解

ローマの信徒への手紙は紀元57年頃、コリントに滞在する使徒パウロが、ローマ帝国東半分ギリシア語圏で伝道を終えた時点で、まだ訪問したことがないローマの教会へ書き送った手紙である。著者はこのテキストを、当時のディアスポラ書簡の文脈に置き直し、編集史的な観点と共に修辞学的＝書簡論的な分析を施すことによって、著者と読者とのコミュニケーションの中でいかなるメッセージがやり取りされたかを精緻に解明する。下巻は9章から最後まで。

\*上巻は、緒論および1章から8章までを扱う（定価5060円）。

梅津順一著

## ヴェーバーとフランクリン

神と富と公共善

ヴェーバーが「資本主義の精神」を体现する人物として紹介したベンジャミン・フランクリン。その思想と行動を綿密に分析し、『プロ倫』の記述を検証する。フランクリン自身の宗教観と社会観が鮮明に浮かび上がり、同時に近代社会の形成に果たした宗教の役割が明らかとなる。

四六判・予価4950円

戸田聡著

## 古代末期・東方キリスト教論集

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究や、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳など、他に著者が企図するヴェーバー『宗教社会学論集』全訳をめぐる論考を含む27編を収録。

A5判・予価5500円

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

## 共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

● 8月に出た本と雑誌

## 遺跡が語る聖書の世界

長谷川修一著



聖書の世界の人々は、どんな住まいに住み、いかなる食生活を送り、何を着て装っていたのか？ また彼らが使っていた貨幣や暦は？ 戦争ではどんな武器を使っていたのか？ 聖書考古学の第一人者が、古代の人々の暮らしと社会をめぐる興味尽きないテーマを楽しく解説。聖書の読み方が一歩深くなる。『福音と世界』好評連載の単行本化。

◆四六判・定価2310円

〔重版〕

## 汝の敵を愛せよ

M・L・キング著／蓮見博昭訳

◆定価1870円

## 福音と世界

◆定価660円

9月号 技術との対話

寄稿者：安田智博、小泉空、中村徳仁、児玉真美、入江公康／宇井志緒利、田崎英明、村澤真保呂、有住航、栗田隆子、金迅野、土井健司、好井裕明、辻学

●編集者の役得(?)に、いろいろな方から本をいただけるということがあります。この間も、何冊か新刊をいただいたので、以下でご紹介させていただきます。村澤真保呂『都市を終わらせる——「人新世」時代の精神、社会、自然』(ナカニシヤ出版)。「福音と世界」で「靈性のエコロジ」あるいはアニマルマテリア」を連載中の村澤さんの初の単著。新自由主義的な都市政策のみならず、存在様式としての都市じたいを問題化する議論は連載にも直結しています。オレンジの紙の装釘もすばらしいです。入江公康『増補 現代社会用語集』(新評論)。直近では『福音と世界』九月号に寄稿された入江さん。その名著『現代社会用語集』に最新的话题を加えた増補版が刊行されました。映画『バハールの涙』についての項目は貴重です。堅田香緒里『生きるためのフェミニズム——パンとバラと反資本主義』(タパブックス)。「福音と世界」に何度かお書きいただいた堅田さんの初の単著。資本主義と対峙し「パンもバラも」要求するフェミニズムの視点から、さまざまな経験知がにつづられます。横浜・黄金町のジェントリフィケーション批判は、カジノリゾートをめぐる揺れる行政の裏で起きてきたことを伝える重要なも

のと感じました。守中高明「浄土の哲学——念仏・衆生・大慈悲心」(河出書房新社)。やはり『福音と世界』に何度かお書きいただいた守中さんの前著「他力の哲学」の続編。中世仏教の思想をこれほどまで徹底化しようのかと、驚愕の一言です。(堀)

●来年の渡辺禎雄版画カレンダーが「キリストと子供」(一九八一年)に決まりました。「子供たちを私のところに来させなさい。神の国はこのような者たちのものである」と語ったキリストの愛に満ちた眼差しが印象的です。地色は赤。発売は一〇月上旬です。名入れは一〇〇枚以上から承ります。教会や会社の名を入れて贈り物にも使えます。ぜひご検討ください。(本体五〇〇円、名入れは初回のみ版下代五〇〇円+税を頂戴します。)(小林)



# 福音と世界

2021年  
10

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8760円

特集 身体再考

中世におけるキリストの肉体  
——中世の聖餐論を考へる—— 山内志朗  
老いる身体の永遠 ——「世俗の時代」の  
シャルル・ベギー—— 坪光生雄  
人間の悲惨を鏡照する  
——シモヌ・ヴェイユの身体論—— 佐藤紀子  
身体・セックス・神学の現場から ——「聖書の中の  
男たち」七年ぶりの番外編—— 大嶋果織  
身体の何が問題なのか ——ジュネアス・パトラに  
おけるセックスとジラダの形成—— 佐藤嘉幸  
自分らしさを「外付け」すること  
——フアッションと自己境界—— 田島ハルコ

【好評連載】

- ◆アジアの草の根 平和の証し人 2 …… 宇井志緒利
- ◆間隙を思考する 非同時代性のために 7 …… 田崎英明
- ◆古代イスラエル文学史序説 8 …… 勝村弘也
- ◆靈性のエコロジ あるいはアマニマテリア 9 村澤真保呂
- ◆「Say a Little Prayer」開かれる世界 19 …… 栗田隆子
- ◆今を生きてみるには 19 …… 金迅野
- ◆新約釈義 第三マテテ書 19 …… 辻 学
- ◆くまさんのシネマめぐり 22 …… 好井裕明
- ◆教父学入門 25 …… 土井健司